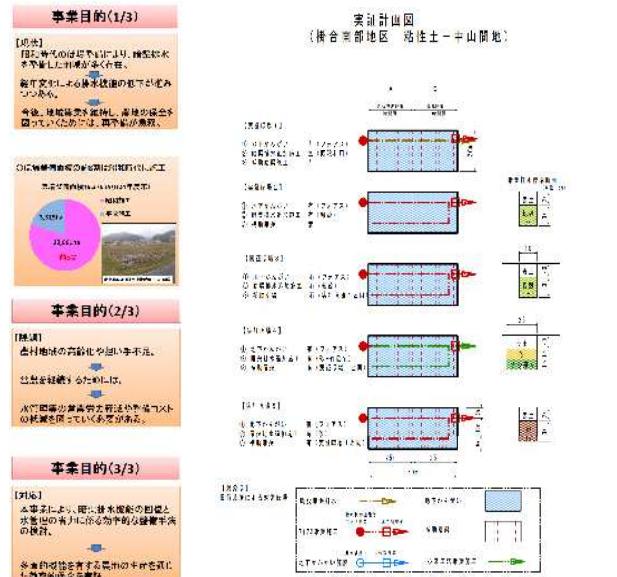


【水と土基金】

水田の汎用化に向けた既設暗渠排水の活用方法 実証実験【松江市鹿島町、雲南市掛合町】

水田をフル活用して、麦・大豆等の戦略作物や地域振興作物を栽培していくなかで、畑作物の生産性向上が求められており、水田では、より一層の排水性改善や水管理の効率化を行っていく必要がある。

一方、島根県内のほ場整備済み水田の多くは、昭和時代に整備を終えており、整備後相当の年数が経過しているため、経年変化による暗渠排水機能の低下が懸念されていることから、暗渠排水機能が低下した水田において、水管理機能の追加と排水機能の回復に向けた整備手法を検証することとした。



中山間地域における畦畔法面除草作業 省力化の検証【安来市赤屋地区】

中山間地域における営農においては、除草作業に多大な労力を要し、近年の急速な過疎・高齢化の進行もあり、除草作業の負担が耕作放棄地の発生・増加の要因となっている。そこで、除草作業の負担を軽減するため法面上土壤硬化剤を添加する実証試験を行い、その抑草効果を検証し、防草対策として導入に結び付けたい。



固化材混合



法面転圧



完成状况

資料7

農村環境調査【江津市市山地区】

保全活動で復田したやぶさめの棚田周辺にはイチョウウキゴケ、ケラ、ドジョウ等が多くみられるほか、やぶさめのため池はモリアオガエルの産卵場所になっている。また隣接する江尾地内の排水路にはオヤニラミ等の希少種が発見されるなど、生物資源が多く存在している地域であり、市山環境協議会ではこれらの生物資源の保全やその活用を通じて地域の活性化を図る方針である。

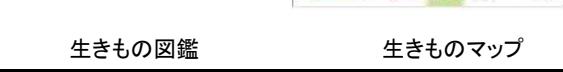
①生き物調査、②生き物マップ(保全マップ)等作成、③ワークショップ等を行い、今後の活動に活かしていく。また、この調査結果を踏まえ、生態系に配慮した水路等の保全事例となる本地区の整備手法を、類似の他の農地・水組織へも普及していく。



ワークショップ



生きもの調査



生きもの図鑑

ビオトープづくり調査研究事業【津和野町堤田地区】

堤田地区は、水田、水路等にはカブトエビ、ホウネンエビなどの希少な水性生物が生息し、地域内で生産される減農薬米は「めだか、カブトエビ、豊年エビが宿る里『つつみだのコシヒカリ』」として販売されるなど、環境に対する配慮や農村の景観づくりに高い関心を有する地域である。

このような地域特性を背景に、地域住民が主体となった計画から整備、管理の手法の検討を行う生態系保全型水路の実証試験として、平成22年度この地域の中央部を流れる水路にビオトープを整備した。



洗川ビオトープ



説明看板

【棚田基金】

地域活動支援

各棚田組織で実施するイベントやPR活動の支援を行っています。

【活用事例】



田んぼの学校活動支援
(雲南市 山王寺)



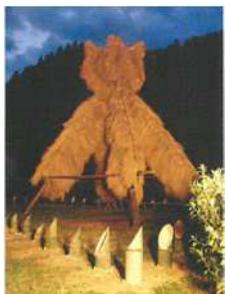
ワークショップの開催
(雲南市 山王寺)



棚田カードの作成
(県内)



オーナー募集チラシ
(邑南町 神谷)



ヨズクハデライトアップ
(大田市 ヨズクの里)



ヨズクの里フォーラム開催
(大田市 ヨズクの里)



イベント用法被の製作
(邑南町 羽須美)



棚田交流施設等の整備

棚田組織が行う交流施設等の整備のための支援を行っています。

【活用事例】



棚田周辺マップの設置
(大田市 子ご美の里)



展望台東屋の補修
(吉賀町 大井谷)



棚田石垣の補修
石積み手順書の作成
(吉賀町 大井谷)



オーナー田湧水路整備
(雲南市 山王寺)



散策道の整備
(浜田市室谷)



案内看板の設置
(浜田市 都川)



展望台階段、手摺の補修
(吉賀町 大井谷)



オーナー耕作道路の補修
(吉賀町 大井谷)